

# C B T 版愛媛県学力診断調査の実施について

G I G Aスクール構想の前倒しによって、今年度より、県内全ての公立小中高等学校に1人1台端末が整備されました。教育現場には『個別最適な学び』の充実が求められており、世の中の期待も計り知れないものとなっています。

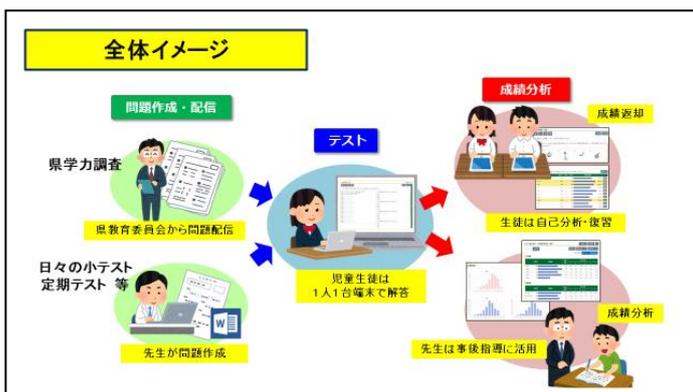
そのような中、県ではコンピュータ上で出題、解答、採点、集計等を行うことができる、えひめICT学習支援システム（E I L S : エイリス）の開発を進めてきました。

今年度の愛媛県学力診断調査は、このE I L Sを使用して実施します。初めてのC B T方式での調査に備え、昨年末、通信状況、E I L Sの操作方法の確認を行いました。各学校の小5・中2の児童生徒を対象に、音声や動画を使った出題や、指を使って絵を描くことで解答するクイズ形式のプレテストを実施しました。実施後の児童生徒の感想を紹介します。

- ・楽しかった。簡単だった。またやりたいと思った。
- ・紙テストよりも意欲をもって取り組める。時代が変わったと思った。
- ・画像や動画があって分かりやすい。定期テストでも使ってほしい。
- ・アシスト機能が便利だった。解きやすかった。
- ・文字入力の練習も必要だと思った。 など

これまでの紙のテストと違って、音声や動画を使った出題に新鮮な気持ちで取り組んだ児童生徒が多くいたようです。子供たちの反応は概ね良好であった一方で、通信環境や文字の入力方法等の課題も明らかになりました。

今回得られた成果と課題をしっかりと検証し、早急に改善を行い、県学力診断調査の実施に向けて、万全の体制を整えます。



県学力診断調査は、小学校が1月24日（月）～28日（金）、中学校が1月17日（月）～21日（金）の期間で実施します。その後、2月には小6・中1を対象としたチャレンジテストを実施するなど、3月までの試験運用期間を経て、いよいよ4月からE I L Sの本格運用を開始します。

このE I L Sを活用して定期テストやドリル等をC B T化することにより、児童生徒へのフィードバックが速やかに行われるとともに、教員の業務負担縮減が図られることが期待されます。

## I C Tは有能だが、万能ではない

教育においては、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」、「不易」と「流行」で言えば「流行」の部分に柔軟に対応することが求められます。C B Tを含むI C Tはまさに、時代の最先端の「<sup>はや</sup>流行り」であり有用なものに違いはありませんが、決して万能であるとは限りません。また、教育において、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値あるもの」、いわゆる「不易」な部分も存在します。子供たち一人一人がこの「不易」を身に付けるためには、時間をかけ、アナログな学びに立ち戻ることも求められます。私たちには、教育における「流行」と「不易」を見極め、今の時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を育む責務があると思います。

そのためには、「まずやってみること」が大切で、これなくして課題も見えてはきません。

県教育委員会では、小回りの利くC B T化、日々の授業で活用できるI C T化、それに伴う働き方改革を目的にE I L Sの開発を全国に先駆けて取り組んでいます。

I C Tを活用した新しい教育の推進とともに、これまでのやり方でしか身に付けられない教育もあるはずとのスタンスで、そのバランスを追究していく所存です。それを、子供に還元し、愛媛で学んだ子供たちが、来るべき超長寿社会「人生100年時代」を豊かに幸せに暮らすことができるよう願っています。